

西尾市
学生議会

令和6年8月23日 午後2時から午後4時まで

西尾市役所 議場

議長／東部中学校 村井絢南

皆さん、こんにちは。本日、前半の議長職を務めさせていただく東部中学校の村井絢南です。よろしくお願いします。

ただいまから西尾市学生議会を開会します。

初めに、中村市長から挨拶があります。

市長挨拶

市長／中村健

皆さん、こんにちは。西尾市長の中村 健です。

本日は、学生議会にご参加いただきありがとうございます。

皆さんは中学生ですので俗に言う「子ども」というカテゴリーに入ります。実は、令和5年に「こども基本法」という法律が制定されましたが、「名前ぐらい聞いたことがある」という人はいますか。

この法律はぜひ知っておいてもらいたいのですが、目的を簡単に言うと「全ての子どもが将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指す」ということになります。法律の中に基本理念というものがあって、5個ぐらい書いてあるんですけども、その中のいくつかを紹介させていただきます。

一つは「全ての子どもについて、その年齢及び発達に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会及び多様な社会的活動に参画する機会が確保されること」ということと、もう一つ記述があって、「全ての子どもについて、その年齢及び発達に応じてその意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮されること」とあります。

未成年で子どもというと、どうしても大人は守らないといけないということで、大人の都合で子どものことを考えがちですけれども、この法律ができたことの意義というのは、「子どもにしっかり意見を表明してもらおう」「子どもの意見をしっかり尊重しよう」ということが法律でうたわれているということで、すごく意味があります。

未成年だから法的にできないことはいろいろありますが、皆さんは日本国の西尾市に住んでいるわけで、そうすると「もっとこういうふうにしてほしい」とかいろいろな思いがあると思います。そういうことを自分自身で考えながら、積極的に意見を表明してもらえるような時代になってきているということで、そういう意味では、今回の学生議会も非常に意味があると思っています。我々も変な意味で子ども扱いせず、本気でお答えしますので、よろしくお願いします。

その一方で、今、社会の問題として分断ということがよく言われています。価値観の多様化やストレスが溜まりやすいなどの原因があるのだらうと思いますが、僕なりに状況を見てみると、自分の考える正義が絶対で、そこに相入れない考え方に対して徹底的に攻撃するという人が増えてきていて、それが分断の一番大きな原因ではないかと思っています。先ほど申し上げたように自分の考えを持つことは大事で、そこはしっかりいろいろな経験をする中でいろいろな考えを持ってほしいですが、だからといって、自分の考えが唯一絶対の正解であり正義だというふうに思わないで欲しいです。

いろいろな考え方が世の中にあって、私も正しいけれどもあなたも正しいというよう

なスタンスで、いろいろな人の意見を尊重しながら、一つ何か決めていくときにはどうすればいいかということが大事だと思うので、自分の意見を持ちつつ、他の人の意見も尊重できる、そんな人になってほしいと思います。

今日は皆さんの立場でいろいろな提案、意見、質問をしてくれます。それに対して皆さんと同じような考え方のこともあれば、ひょっとしたら違う考え方で答えさせてもらうこともあるかもしれませんが、それはさきほど言ったように、ある立場では正解であることが、違った立場から見ると必ずしも正解ではなかったりするので、それを一連のやり取りを通して知ってもらえると皆さんの成長にも貢献できると思いますので、よろしく願いいたします。

この議場という場は、僕らも答弁するときにはやっぱり緊張します。独特の雰囲気があります。きっと皆さん緊張していると思いますので、緊張しないでというのは難しいかもしれませんが、なるべく肩の力を抜いていつもどおりの自分の姿で発言してもらえるといい学生議会になると思いますので、そこを期待いたしまして開会の挨拶に代えさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

議長／東部中学校 村井絢南

これより学生議会の質問を行います。

質問通告者は福地中学校 永谷脩議員、平坂中学校 柴田春渡議員、鶴城中学校 大久保旭議員、吉良中学校 加藤乃愛議員、一色中学校 吉田明星議員、西尾中学校 大橋実議員、幡豆中学校 小林優太議員、寺津中学校 岡本悠真議員、佐久島しおさい学校 筒井大駕議員、私、東部中学校 村井絢南、以上の10名です。

質問の順番は、お手元に配付しました質問通告書一覧にある発言の順番のとおりです。順次、発言を許可します。最初の質問者、福地中学校 永谷脩議員。

1番／福地中学校 永谷脩議員

それでは、通告に従い、質問します。

僕のテーマは「スポーツを通したまちおこし」です。

西尾市は、令和3年4月に、スポーツを愛し、スポーツを通じて健康で豊かな心と体を育て、「スポーツで元気になるまち西尾」を作るため、「スポーツ都市」を宣言しています。その後、令和4年3月に、第1回にしおマラソンが開催され、来年の1月には第3回が開催される予定です。

また、2年後の令和8年9月から10月には、オリンピック・パラリンピックのアジア版大会である「アジア・アジアパラ競技大会 愛知・名古屋大会」が開催され、西尾市総合体育館でボクシング競技が行われます。

その他にも、吉良町の駿馬瀬戸地区にテニスコートが新たに建設されるなど、西尾市がスポーツに力を入れていくには、丁度よい時期ではないかと思います。

アジア競技大会の際には、多くの方が西尾市を訪れることが予想されています。そこで名古屋鉄道と協力したりすれば、西尾市の知名度の向上につながるのではないのでしょうか。

さらに、スポーツを通じて市をPRし、大規模な大会や合宿を誘致したり、スポーツイベントの開催が増えたりすれば、市民全体のスポーツへの関心が高まるとともに、スポーツ観戦等で西尾市を訪れる人が増えます。スポーツを通じたまちづくりの機運が高まることで、子どもたちがスポーツをする機会が増え、需要が高まることで競技場の整備が進めば、子どもたちにとってスポーツがより身近なものになるのではないかと思います。

そこで質問します。

スポーツイベントを市内外にPRする方法やタイミング・内容はどのようなのですか。

交流共創部長／石川孝次

スポーツイベントを市内外にPRする方法は、そのスポーツのイベントの規模や内容によって異なってきます。

例えば、市民を対象とするイベントにつきましては、開催日の前の前に発行される「広報にしお」や、開催日直前の市LINE公式アカウントを利用してPRしています。

また、にしおマラソンのように広く全国からランナーを呼び込むイベントにつきましては、半年以上前から日程やコースを告知し、専用のウェブサイトやSNSアカウントなどを利用してPRを行います。

一方で、アジア・アジアパラ競技大会のような国際的なイベントになりますと、前年度に本大会を盛り上げるためのプレイベントを行ったり、開催直前に聖火リレーを実施したりするなど、1年以上の歳月を掛け大規模なPR活動を行いながら大会に備えているところです。

1番／福地中学校 永谷脩議員

ありがとうございました。

続きまして2つ目の質問に移ります。

「アジア・アジアパラ競技大会 愛知・名古屋大会」が開催され、西尾市もボクシング競技の会場となります。

名古屋鉄道やテレビ局などと協力しながら、SNSなどを活用して西尾市の魅力をPRし、地域資源とスポーツを組み合わせたスポーツツーリズムを進めませんか。

交流共創部長／石川孝次

アジア・アジアパラ競技大会につきましては、大会を主催する愛知県と名古屋市が会場への交通手段の調整を、また組織委員会が放送局の調整を行うとなっています。

西尾市では、これらの組織と調整しながら市への来訪者を歓迎するため、会場周辺ですとか市街地の飾り付けを行う、いわゆる「シティドレッシング」ですとか、ボクシングに関するイベントを企画しながら大会を盛り上げてまいります。

本市を代表するスポーツイベントになりつつある「にしおマラソン」では、県内外からランナーを呼び込み、西尾の特産品でおもてなしするなどして、スポーツツーリズムにつなげています。

アジア・アジアパラ競技大会につきましても、組織委員会は同様の考えを持っていますので、愛知県全体でスポーツツーリズムが進められていく予定ですが、市としましても

西尾市を国内外にPRする絶好のチャンスと捉えて、準備していきたいと考えております。

1 番／福地中学校 永谷脩議員

ありがとうございました。

この学生議会での質問を通して、特ににしおマラソンでは、ランナーの方々を西尾市の特産品でおもてなしすることが、西尾市をPRすることにおいて非常に大きな役割を果たしてくれるのではないかと感じました。

その他にも、アジア・アジアパラ競技大会でのイベントなどを通して、市民一人ひとりにとって、スポーツがより身近なものになったり、西尾市に多くの観光客が訪れたりして、西尾市がもっと活気あふれるまちになることを期待しています。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

議長／東部中学校 村井絢南

福地中学校 永谷脩議員の質問が終わりました。

次に、2 番目の質問者、平坂中学校 柴田春渡議員。

2 番／平坂中学校 柴田春渡議員

はい。それでは、通告に従い、質問します。

僕のテーマは「他の中学校生徒と交流を深めるために」です。

僕は学習塾に通っており、その塾には他の中学校の生徒もいます。しかし、同じ場所で勉強していても、他の中学校の生徒と話すことはほとんどなく、中学校ごとの壁があると感じています。

また僕は文化部に所属していますが、運動部の大会や試合のように、他の中学校の生徒に会う機会が全くありません。他の中学校の生徒と関わる機会のある生徒に比べて、僕はコミュニケーションスキルを磨く機会が不足していると感じています。そのため、他の中学校の生徒と交流する場をもっと増やしたいと考えています。

西尾市では毎年、市内の中学2、3年生を対象に、イングリッシュキャンプが行われています。イングリッシュキャンプでは、夏休み期間中に1泊2日の日程で佐久島において実施され、英語指導助手との方と一緒に、全て英語で佐久島の自然体験活動や交流イベントを行うものです。僕も去年参加して、他の中学校の生徒と交流する中で新しい友達ことができました。しかし、イングリッシュキャンプは英語の学習が主な目的ですので、同じ活動班の仲間や、同じ旅館に泊まった人としか友達になることができませんでした。せっかくの機会だったので、できれば参加者全員と交流したかったです。

そこで、西尾市の新しい取り組みとして、市内の中学校の生徒が交流できるイベントを行ってはどうでしょうか。部活動など学校・部活動以外でも、交流を通して友達を作る機会できたらいいなと思いました。中学校の壁を越えて新たなネットワークを築き、新しい視野に気づくことで、将来に役立つコミュニケーション能力を高められると思います。

そこで質問します。

イングリッシュキャンプ以外で、今までに市内の中学校の生徒が交流できるようなイベントは、どんなものがありましたか。

教育部次長／渡辺登志雄

これまで、西尾市が中学生の交流を主な目的として行ったイベントはございません。

ただ、中学生が交流できるイベントとしましては、リーダー養成塾やこの学生議会がございます。また柴田議員がご意見の中でおっしゃった部活動も、他校の中学生と交流できる良い機会であると考えております。

2番／平坂中学校 柴田春渡議員

ありがとうございました。

続きまして2つ目の質問に移ります。

西尾市の歴史や抹茶などをテーマに、中学校の壁を越えて、生徒が交流しながら西尾市について一緒に学ぶことのできるイベントを実施しませんか。

教育部次長／渡辺登志雄

柴田議員のご提案は「中学校の壁を越えて中学生が交流できるイベントを開催しませんか」というご提案です。

西尾市では「西尾祇園祭」を始め様々なイベントを行っており、それらのイベントには中学生はもちろん、どなたでも参加していただけます。

イベントへ参加する方法としましては、お客さんや出演者として参加する他、運営側として参加する方法もございます。中学生の皆さんは、これまではお客さんや出演者としてイベントへ参加することが多かったと思いますが、皆さんが申し出てくだされば、運営側として参加することも可能だと思います。

現在、多くのイベントで運営側の中心的な役割を果たしているのは、主に地域の大人たちですが、イベントの盛り上がりやイベントの継続を願っている大人たちからすれば、中学生の皆さんが運営側として参加してくれることは大変喜ばしいことであり、皆さんのことを温かく迎えてくださると思います。

運営側としてイベントに参加するには、少し勇気がいるかもしれませんが、一步踏み出すことができれば、中学校の壁どころか世代を超えた交流が可能となります。

今回このテーマを選び、意見を述べられた柴田議員は、きっとそれができると思いますので、ぜひ一步を踏み出してください。

2番／平坂中学校 柴田春渡議員

ありがとうございました。西尾祇園祭を始め数多くのイベントがありますが、僕はあまり参加していなかったもので、次から参加しようと思います。

また、今回の学生議会を通して自分の意見を周りに伝え実行するのは大変であり、難しいことだなということを知りました。今、西尾市で行われているイベントを、こういう会議を通して行われていることを知り、感謝しながらイベントに参加したいです。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

議長／東部中学校 村井絢南

平坂中学校 柴田春渡議員の質問が終わりました。
次に、3番目の質問者、鶴城中学校 大久保旭議員。

3番／鶴城中学校 大久保旭議員

それでは、通告に従い、質問します。

僕のテーマは「介護支援の拡充について」です。

皆さんの身近な方や家族の中に介護を必要とされている方はいますか。

私の曾祖母も、かつてはその1人でした。それまで、自分だけでなく家族の食事の用意や洗濯までやっていた曾祖母が85歳の時に突然、自分の食事や水分補給も忘れてしまうほど重度の認知症になってしまいました。

そのため、私の母が、曾祖母の介護のために動くことになりました。私は、その時に初めて介護の必要度によってレベルが分けられていることを知りました。家族は「特別養護老人ホーム」への入居を希望していましたが、曾祖母の要介護レベル2では申込みができませんでした。

仕事もあり、付きっきりの介護が難しい母にとっては、かなり苦しい日々が続きました。その後、曾祖母が受け入れられた「サービス付き高齢者向け住宅」は、費用の面で特養よりも高くなることが多いそうです。

そこで提案します。私の提案は、「介護が必要な方に対するサービスやケアの拡充」です。例えば、介護施設や介護職員の増大、特養に入ることができる人の基準の緩和をして、希望する人が誰でも介護施設に入居できるようにしてほしいと思います。また、要介護者だけでなく、介護する家族に対するサービスやケアの拡充もしてほしいと思います。

そこで質問します。

特養に入ることができる人の基準や、介護レベルに応じたサービスの内容は国により統一されていますか。

健康福祉部次長／鈴木貴之

特別養護老人ホームの入所を始めとする、介護サービスの利用基準は、国が介護保険制度の中で統一的に定めています。

介護保険制度は大久保議員のお母様のように、高齢者の介護を行う家族の皆さんの負担を軽減して、社会全体で支え合う仕組みとして、今から24年前に国が創設しました。

また介護保険の費用のうち、一般的にサービス利用者が負担する利用料金は全体のおおむね1割で、それ以外はサービスを利用していない方の税金などによって賄われている仕組みとなっていますが、ご存知のとおり、税金には限りがありますので、重度の要介護状態の方の利用を優先する基準とされています。

したがって、その利用基準により市内、市外に関係なく、特別養護老人ホームでは、基本的に日常生活の全てで介護が必要となるような要介護度3以上の方に入所が限定されていることとなります。

3番／鶴城中学校 大久保旭議員

ありがとうございました。

国により統一されているとのことですので、再質問します。
西尾市は介護施設を増やして、より手厚い対応をしませんか。

健康福祉部次長／鈴木貴之

介護サービスには特別養護老人ホームのような施設に入って生活する「施設サービス」と、住み慣れた自宅に住みながら施設に通ったり介護に来てもらったりする「居宅サービス」があります。

施設と居宅のどちらのサービスを利用するかは、介護度に応じて、利用者の希望や家庭の事情により選択することができますが、西尾市が昨年度、高齢者を対象に行ったアンケートでは、約7割の方が施設よりも住み慣れた自宅での暮らしを希望していると回答されていました。

また、西尾市の施設サービスについては近隣の市町より現時点では比較的充実していることから、市としましては、今は居宅サービスの方を充実させていきたいと考えています。

また大久保議員のご家族のように、介護レベルによって利用したい介護サービスが使えない場合も少なくはないと思います。そうした場合には、おおむね中学校区ごとに設置しています、高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センターで高齢者本人はもちろんのこと、介護する家族からの多様な悩みに対して専門職員が寄り添う相談支援による対応を心がけていきたいと考えています。

3番／鶴城中学校 大久保旭議員

ありがとうございました。

続きまして、2つ目の質問に移ります。

働きながら介護する母はとても大変そうでした。介護する家族に対するサービスやケアは何かありますか。もっと充実させませんか。

健康福祉部次長／鈴木貴之

介護する家族に対するサービスやケアにつきましては、介護の悩みを話し合い、解消につなげられる場として、毎月「認知症介護家族交流会」を開催したり、市内14か所の介護施設などで息抜きや交流の場として「認知症カフェ」を開いたりしています。

また「大人の教養講座」と題した介護と医療の勉強会や「認知症介護家族向けの学習講座」では、より幅広い専門的な情報を提供しています。さらに、低所得者の世帯が対象ですが、寝たきりや認知症でおむつが必要な高齢者の介護家庭に、紙おむつなどを支給したり、介護サービスを使わずに在宅で介護している家庭に慰労金を支給したりする制度もあります。

また、先ほどもご答弁申し上げました地域包括支援センターにおいて、介護者の負担軽減を図るとともに、高齢者が安心して地域で暮らしていけるような支援の充実に努めています。

3番／鶴城中学校 大久保旭議員

ありがとうございました。

続きまして、3つ目の質問に移ります。

母が家事、仕事、そして介護と忙しそうにする姿を見て、介護する側に対する補助があるといいなと思っていました。そんな中、「認知症サポーター」という役割の方がいることを知りました。

にしお未来創造ビジョンの分野別基本計画、基本目標4・施策3の中に「認知症サポーター数の増大」がありますが、認知症サポーターの方が行える具体的な取り組みはどんなことがありますか。

健康福祉部次長／鈴木貴之

大久保議員、にしお未来創造ビジョンの福祉分野について関心を持っていただきありがとうございます。

さて、認知症サポーターとは、認知症を正しく理解するための講座の受講者のことで、現在までに12,000名を超える市民がサポーターになっています。

「サポーター」というと、サッカーチームなどの応援者がイメージされますが、それと同じで、受講者には認知症を正しく理解し、認知症の人の応援者であることを示す、このような「オレンジリング」を身につけていただいています。ちなみに、認知症サポーター養成講座は小中学校でも出前講座として実施でき、昨年度までに寺津小学校や一色南部小学校で受講した児童の皆さんにも、この「オレンジリング」を配りました。

なお、認知症サポーターの取り組みとしては、何か特別なことをやるというものではなく、日ごろから認知症に偏見を持たず、患者本人やその家族を温かく見守っていただいたり、必要に応じて優しく穏やかに接していただいたりすることが求められています。

またサポーターのうち、認知症に関するより専門的な講座を受講して「オレンジサポーター」として登録された方が17名います。オレンジサポーターの皆さんは、認知症理解のための演劇を披露したり、毎年、市が開催する認知症の啓発イベント「オレンジフェスタ」に参画したりして、認知症にやさしいまちづくりに向けた多彩な活動を展開されています。

3番／鶴城中学校 大久保旭議員

ありがとうございました。今回は自分の身近な問題である福祉を通して、西尾市の取り組みをより一層知ることができました。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

議長／東部中学校 村井絢南

鶴城中学校 大久保旭議員の質問が終わりました。

次に、4番目の質問者、吉良中学校 加藤乃愛議員。

4番／吉良中学校 加藤乃愛議員

はい。それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは「一日中楽しめるまち にしお」にするために」です。

私は幼いころ、よく公園に連れて行ってもらいました。近所の公園はもちろん、近隣市町の大きな公園にも連れて行ってもらいました。特に半田市の運動公園や、大府市の「あいち健康の森公園」など、たくさんの遊具や遊び場がある公園が印象に残っています。

西尾市にも「愛知こどもの国」や「遊ぼっ茶広場」など、無料で利用できる施設があり、多くの家族連れが訪れています。私も何度か訪れたことがあり、そこで遊んだことは、楽しい思い出の1つとなっています。

以前、キッチンカーのイベントが行われたとき、久しぶりに「愛知こどもの国」を訪れました。幼いころに遊んだ記憶が蘇ると同時に、遊戯や様々な施設が老朽化していると感じました。

同じく県営の公園であり、碧南市と安城市にまたがる「油ヶ淵水辺公園」は、平成30年から徐々にエリアを拡大し、令和5年に新たに遊具広場を整備したと聞きました。新たな遊具で子どもたちが遊ぶ様子はSNSでアップロードされることも多く、私も何度か目にすることがあります。

このように、西尾市も今ある公園設備の老朽化を整備したり、新たな遊具を追加したりするなど、多くの方が一日中楽しめる施設を計画してはどうかと考えました。そうすることで、多くの方に西尾市の魅力を知ってもらい、「一日中楽しめるまち にしお」として認知してほしいと思います。

そこで質問します。

これまで無料で楽しめる大きな公園や施設を建設しようという議論がされたことがありますか。

都市整備部長／吉田修二

無料で楽しめる大きな公園や施設を建設することについて、過去に議論をされたこともあるかとは思いますが、近年ではそのような議論はしておりません。

公園や緑地の整備方針については、にしお未来創造ビジョンや西尾市都市計画マスタープランなどの市の主な計画に示されていて、整備を進めているところですが、大きな公園については、市民などから整備を望むご意見やご要望を多くいただいている状況となっています。

4番／吉良中学校 加藤乃愛議員

ありがとうございました。

公園や緑地の整備方針について、にしお未来創造ビジョンや西尾市都市計画マスタープランなどの主な計画に示され、整備を進めているとのことですので、再質問します。

大きな公園の整備を望むご意見やご要望が多くあるとのことですが、整備することを考えませんか。

都市整備部長／吉田修二

大きな公園を新たに整備するには、交通の利便性やアクセス性による整備場所の選定の問題や、整備する場所や周辺を含めた環境面や防犯・安全面への配慮が必要になるなど、多くの課題があって大変難しいと考えています。

しかしながら、無料で楽しめる施設等の要望は多いため、無料で楽しめる場所として、西尾駅東駅前広場や西尾公園の再整備を現在進めているところです。

また、将来的には八ツ面山や岡ノ山遊ぼう茶広場を含む、古川緑地を一体的に利用した公園の整備を計画しており、八ツ面山の自然を生かしたアスレチック施設や水遊び施設の整備、芝生広場には複合遊具を整備するなど、「また来たい」と感じてもらえる魅力的な公園となるように考えています。

4番／吉良中学校 加藤乃愛議員

ありがとうございました。

続きまして、2つ目の質問に移ります。

半田市運動公園の大きな滑り台や油ヶ淵水辺公園のカエルをモチーフにした遊具など、多くの人を訪れる場所には、トレードマークとなる遊具があります。現存する施設の老朽化を踏まえ、トレードマークとなる遊具にリニューアルしてはどうですか。

都市整備部長／吉田修二

今ある公園施設は定期的な点検の結果、老朽化により更新が必要な施設があります。また、公園の再整備の際には、今ある遊具などを一新することもあります。

遊具等の更新や新設における市の整備方針としましては、基本的に市民参加の整備を考えており、地域の方々の意見や要望などを取り入れることにより、公園施設等の整備計画をつくることにしています。

トレードマークとなる遊具の設置は、利用者の増加や、公園への愛着につながることを期待されますので、今後、公園の整備や再整備を進める中で、トレードマークとなる遊具の設置についての意見や要望が出されましたら、予算や現場の条件にもよりますが、それを考慮した上で、設置の可否を考えてまいります。

4番／吉良中学校 加藤乃愛議員

ありがとうございました。

大きな公園を整備するには、交通の利便性や安全面から非常に多くの課題があることが分かりました。一方で、公園施設等の整備計画が市民参加であると知りました。今後、私たちの意見や要望を基に計画を進めてくださることで、「一日中楽しめるまち にしお」になることを期待しています。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

議長／東部中学校 村井絢南

吉良中学校 加藤乃愛議員の質問が終わりました。

次に、5番目の質問者、一色中学校 吉田明星議員。

5番／一色中学校 吉田明星議員

はい。それでは、通告に従い、質問します。

僕のテーマは「もっと活気のある地元をしたい」です。

僕は地元の一色町を含む西尾市が、もっと活気のあるまちになればいいなと思っています。そのためには市外から多くの人を訪れるようになれば良いと考えます。

そこで2つ提案します。

1つ目は、スポーツに関わる事業の活性化です。

「にしお未来創造ビジョン」における4つのにしおわくわく戦略の一つに、「新たな活動の創造」があります。その中のプロジェクト2として「地域力の創造」と「関係人口の拡大」があり、スポーツを核とした関係人口の拡大を指標としています。具体的には、マラソンなどのイベント参加者と、Vリーグなどの観戦者数の増加を目指しています。

にしおマラソンでは、県外から参加者が来るなど、西尾市の活性化につながっているように感じます。しかし、バレーボールのデンソーエアリービーズが本拠地を福島県郡山市に移転することが発表され、今後、ファンや応援団の方が市内に来る機会が減少するように考えられます。

そこで、スタンドや照明がある野球場を新たに整備してはどうでしょうか。プロのみならず、高校野球や一般のチーム、またソフトボールの試合を行うことができれば、県外から来場する方も増えるはずで、加えて、開催日には、来場者に向けた西尾の特産品販売所を設置したり、試合が開催されない日には球場の貸し出しを行ったりすることで、より地域の活性化につながると考えます。

2つ目は、海洋関連施設の誘致です。特に、国立研究開発法人海洋研究開発機構の拠点の一つを誘致することで、海岸沿いの町として活性化したいと思います。さらに、施設内の見学コースや研究の模擬体験ができるブースを設置するなどすれば、来場者も増えて、よりまちの経済活性につながると考えます。

また、実際に佐久島で探索体験ができるプログラムを取り入れれば、佐久島を訪れる人が増え、渡船の便数増加や航路拡大、佐久島の活性化にもつながるのではないのでしょうか。

そこで質問します。

今までにスタンドや照明が設置された野球場を建設する計画はありましたか。計画があったのであれば、なぜ計画が進んでいないのですか。

交流共創部長／石川孝次

本市では、平成2年2月に西尾市スポーツ公園の整備が都市計画決定され、当初の計画では、野球場の建設も整備計画に位置付けられていましたが、建設予定地が山林であったため、自然環境に対する意識の高まりから、平成8年度に自然環境保全型の公園整備を行う計画に見直しがされ、それ以降の進展はありませんでした。

しかしながら、野球場の建設につきましては、その後も団体等から建設要望をいただいております。現在は、スポーツ施設整備に関する今後の方針として、令和5年3月に策定しました「西尾市スポーツまちづくりビジョン2040」において、2040年までに整備する施設として位置付けていますので、今後、施設規模ですとか建設場所、建設方法、管理運営方法などについて調査検討を進めてまいります。

5番／一色中学校 吉田明星議員

ありがとうございました。

整備する施設として位置づけられているとのことですので、再質問します。

そのような野球場を建設するのにどのような条件が必要ですか。また、市内に建設することへの障害になっているのは、どのようなことですか。

交流共創部長／石川孝次

スタンドや照明を設置した野球場の建設にあたり、必要な条件として考えられるのは、野球場のスペースだけではなくて広大な駐車場が必要となることです。

また、野球場から発生する騒音ですとか、ナイター照明による周辺への影響なども考慮する必要があり、建設にあたっては周辺住民の理解が必要となります。

これらの条件に加えて、課題となるのが費用です。

「西尾市スポーツまちづくりビジョン2040」策定時に行った試算では、照明が設置された野球場を新たに整備するだけでも約30億円という多額の建設費が必要となります。その他必要となる土地の取得費や建設後の施設を維持管理していく費用も検討した上で、永続的に運営できるかどうか見極めながら進めていく必要があります。

5番／一色中学校 吉田明星議員

ありがとうございました。

続きまして、2つ目の質問に移ります。

今までに海洋施設の誘致計画はありましたか。計画があったのであれば、なぜ誘致が進んでいないのですか。

総合政策部長／西尾隆治

国立研究開発法人海洋研究開発機構、通称 J A M S T E C は、国内に6か所の拠点をもち、地球深部探査船「ちきゅう」や有人潜水調査船「しんかい6500」などを有し、深海や大陸棚などを調査し、地球環境の変動や海洋資源の探索に関する研究を始め、科学技術の向上、地球や生命の理解などに広く貢献するための活動を行っております。

ご提案いただきました J A M S T E C の研究施設を誘致し、施設内に見学コースや研究の疑似体験ができるブースを設置したり、あるいは佐久島で探索体験ができるプログラムを実施したりするということは、来場者にも楽しんでいただくことができまして、大変興味深いアイデアだと思っております。

ご質問の誘致計画の有無についてでございますが、残念ながら、これまでに西尾市が J A M S T E C の施設の誘致を計画したことはございません。

5番／一色中学校 吉田明星議員

ありがとうございました。

現在は誘致計画がないとのことですので、再質問します。

海洋施設を市内に誘致する上での課題は何ですか。

総合政策部長／西尾隆治

海洋施設を市内に誘致するための課題でございますが、近年の J A M S T E C の施設設置状況を見ますと、2005年に開設されました「高知コア研究所」が最新の研究拠点で、以降新拠点は設けられておりません。

2015年には、政府の地方活性化策として研究所移転が検討されまして、7県が候補地として名乗りを上げましたが、既に研究施設を持つ青森県と高知県が選ばれ、一部の機能を移転したのみで、新たな研究拠点は増えていない状況でございます。この移転の話の中で、J A M S T E C は「研究施設を1か所に集中した方が研究の成果が大きくなる」との考えを示しておりまして、そのため、新たな施設の誘致は大変難しい状況であると考えております。

しかしながら、海洋施設に限らず、研究施設の誘致という考え方はとても有意義だと思います。例えば近隣の岡崎市では、自然科学研究機構のうち、分子科学研究所、基礎生物学研究所、生理学研究所の3つの研究所の拠点がございます。

このうち基礎生物学研究所は、2016年にノーベル生理学・医学賞を受賞しました大隅良典氏も在籍していました、世界的にも名前の知れた研究機関でもあります。これらの研究所では、世界的な研究のほか研究所職員が岡崎市内の小中高等学校に出向き出前授業を行うなど、地域における教育面での効果も大きいと認識しております。

今後、研究施設の設置や移転の話などで、西尾市が条件に適合し、また西尾市にとって有益だと判断される場合には、前向きに検討してまいりたいと考えております。

5番／一色中学校 吉田明星議員

ありがとうございました。今後も前向きかつ計画的に市政を進めていただき、活気のある西尾市になるよう尽力していただけたら幸いです。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

議長／東部中学校 村井絢南

一色中学校 吉田明星議員の質問が終わりました。

ここで、しばらくの間、休憩します。午後3時から再開します。

休憩 午後2時45分

再開 午後3時00分

議長／鶴城中学校 大久保旭

皆さん、こんにちは。

私は後半の議長職を務めさせていただく鶴城中学校の大久保旭です。よろしくお願ひします。

それでは、休憩前に引き続き会議を開き、質問を続けます。

6番目の質問者、西尾中学校 大橋実議員。

6番／西尾中学校 大橋実議員

はい。それでは、通告に従い質問します。

僕のテーマは「西尾の抹茶を知ってもらい、触れてもらうため」にです。

僕は今年の5月、兵庫県に旅行に行った際、たい焼き店でとある看板を見つけました。そこに書いてあった内容は「西尾の抹茶使用！！抹茶たい焼き」というものでした。このとき、僕は素直にうれしかったです。西尾の抹茶のブランド力のすごさ、そして、抹茶は西尾の誇りであることを実感しました。しかし、世間一般で見ると、知名度は京都の宇治や静岡に劣ります。西尾市民として、全国の人にもっと西尾の抹茶を知ってもらい、そして触れてもらいたいと思いました。

僕が目にしたのは、令和7年1月19日開催予定のにしおマラソンの中での抹茶の取り扱いについてです。前回大会では、全国各地からランナーが集まったと聞きました。実際に僕もボランティアとして荷物の搬入を手伝いました。そんなにしおマラソンでは抹茶やうなぎなど、西尾市の特産物がランナーに提供され、西尾市について知ってもらうきっかけになったと思います。

そこで、次のことを提案します。

全国各地から多くの人が集まるにしおマラソンの開催日に合わせて、マラソン会場で抹茶の無料体験教室や市内中学校の茶道部員による無料呈茶を行って見たらどうですか。

この取組を行うことで、ランナーだけでなく、応援も来た人たちにも西尾の抹茶をPRすることができ、触れていただくことで知名度が高まり、西尾の抹茶のさらなるブランド力向上につながるのではないのでしょうか。

令和4年度に策定された「にしお未来創造ビジョン」の中に、ふるさと納税の納税額を10年後には約2倍まで伸ばしたいという目標があります。そのためには「西尾の抹茶」のブランド力をさらに高め、より魅力的な返礼品とすることが不可欠だと考えました。

そこで質問します。

にしおマラソンの開催日に合わせて、コース沿いやゴール付近などのマラソン会場で抹茶の無料体験教室や市内中学校の茶道部員による無料呈茶を実施しませんか。

交流共創部長／石川孝次

まずもって、大橋議員におかれましては、第2回にしおマラソンにボランティアとしてご参加いただき、ありがとうございます。参加したランナーからはボランティアの皆さんからの温かい声援が力になったという多くのお言葉をいただきました。

今日議場にお越しの皆さんは3年生ということもあり、第3回大会の参加は難しいかもしれませんが、是非、後輩の皆さんにボランティアの素晴らしさややりがいなどを伝えていただいて、にしおマラソンの盛り上げにご協力いただければと思いますのでよろしく願いいたします。

それではいただいたご質問に対して答弁させていただきます。

にしおマラソンを開催する目的の一つとして、全国各地から参加される方々に西尾の素晴らしさを知ってもらいたいという思いがあります。

そんな思いから、給水所では、西尾の抹茶グリーンティーや一色産うなぎなど西尾の特産品を提供するとともに、参加賞では、イチゴや三河一色えびせんべいを用意して、多くのランナーに喜んでいただきました。

第3回大会におきましても、西尾ならではの特産品を提供するとともに、参加賞では新たに「西尾の抹茶セット」も用意しているところです。

ご提案いただきました「抹茶の無料体験教室」や「市内中学校の茶道部員による無料呈茶」につきましては、ランナーの安全確保や交通事故防止の観点からコース沿いで行うことはできませんが、ゴール会場において、地元特産品等のPRブースを設けるなどの企画を検討してまいります。

スポーツは、「する」「みる」「ささえる」の活動から様々な交流やつながりが生まれます。にしおマラソンを通して、全国から集まるランナーに西尾の抹茶を始め西尾の魅力を伝え、「また訪れたい」という思いにつなげていきたいと考えています。

6番／西尾中学校 大橋実議員

ありがとうございました。

続きまして、2つ目の質問に移ります。

今年の11月16日と17日に、西尾市芥藤町のJA西三河事務センター駐車場において「第76回関西茶業振興大会愛知大会」式典及び西尾の抹茶PRイベントが同時開催されますが、具体的にはどのような内容を予定しますか。

産業部長／渡辺英昭

今年の関西茶業振興大会は愛知県で開催され、大会式典は西尾市で行います。せっかくの機会ですので、西尾の抹茶のブランド価値を一層高めるために、西尾の抹茶の魅力を発信するイベントを同時開催してまいります。

イベント内容につきましては、準備を進めている最中で未確定の部分もありますが、テレビなどで活躍されている有名パティシエの「モンサンクレール」オーナーシェフ辻口氏と「シェ・シバタ」オーナーシェフ柴田氏のお二人を招き、西尾の抹茶についてトークショーを実施する予定でございます。

また数量限定とはなりますが、来場者には有名パティシエのオリジナルスイーツ無料配布も予定しております。他にも西尾の抹茶に関わる体験イベントですとかスイーツ販売を中心としたマルシェの開催など、西尾の抹茶の魅力を味わい尽くせるイベントとなるよう努力してまいりますので、ご期待ください。皆様のご来場をお待ちしております。

なお、関西茶品評会の「てん茶」の部におきまして、西尾市の生産者の方が、個人の最高賞である「農林水産大臣賞」を受賞しております。さらには、市町村を団体の単位としました産地賞では、西尾市が第1位となりました。非常に素晴らしい結果となり、大会式典におきましては、その表彰も行われます。

6番／西尾中学校 大橋実議員

ありがとうございました。有名人を招いてのトークショーがとても興味深く、ぜひ僕も聞いてみたいと思います。

続いて再質問します。

そのほかに、西尾の抹茶をより多くの人に知ってもらい、触れてもらうために、どのようなことを行う予定ですか。

交流共創部長／石川孝次

西尾の抹茶のPRは、主に西尾茶協同組合の協力を得て進めています。

その具体的な取組といたしましては、抹茶をより身近に感じていただこうと、毎年、市役所や道の駅にしお岡ノ山を会場に、市内中学校の茶道部の皆さんにご協力いただきながら、呈茶のおもてなしを行っています。

また、西尾の抹茶をはじめ、特産品等の認知度ですとかブランドイメージの向上を図るため、東京、長野、兵庫など県外での物産展に参加し、特産品の販売ですとか、観光PRを行っています。なかでも、令和3年度から行っている東京都渋谷のカフェと西尾の抹茶のコラボによる特別メニューの販売は、期間限定ではありますが、毎回、大変好評をいただいております。今年度も引き続き開催する予定です。

また、新たな取り組みとして、不定期の開催ではございますが、今年度、中部国際空港の富裕層向け出発ラウンジにおいて、外国人観光客などに西尾の抹茶を振る舞う予定もしております。

これら趣向を凝らした様々な取り組みを展開し、引き続き西尾の抹茶を広くPRしてまいります。

6番／西尾中学校 大橋実議員

ありがとうございました。

西尾の抹茶を広めるために、県外や外国の方々にまで工夫を凝らした活動をされていることを知り、とてもうれしく思いました。僕も西尾の抹茶について、さらに知ってもらうために多くの活動に積極的に参加していきたいです。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

議長／鶴城中学校 大久保旭

西尾中学校 大橋実議員の質問が終わりました。

次に、7番目の質問者、幡豆中学校 小林優太議員。

7番／幡豆中学校 小林優太議員

それでは、通告に従い、質問します。

僕のテーマは「明るい未来への実現に向けて」です。

僕たちが住むこの日本は、地震や台風、火山噴火といったさまざまな自然災害の危険性と隣り合わせにあります。その中でも特に西尾市は、南海トラフ地震が発生したときに、愛知県内では最大規模となる甚大な被害が出ると想定されています。

また、吉良町や一色町といった標高が低い地域では、津波や洪水といった浸水被害の危険性があり、また幡豆町などのような山が近い地域では、土砂災害が発生する可能性があります。

僕は災害について興味を持ち、様々な講座を受ける中で、「防災士」という資格を取得しました。地域の災害への対応力向上のためには、現役世代である大人の力が大切ですが、災害が起こったときに出勤していて、その場にいなくてよくあります。そのため、小中学生といった平日の昼間でも地域にいるような人材を育てていくことが必要だと考えます。

そこで、市が防災士育成プログラムを学生向けに行ったり、学校での防災教育の充実を図ったりすることを提案します。実際に東京都や東北地方では、学生の防災リーダーを育てる取り組みが行われています。

その他にも、自然災害から市民の命を守るだけでなく、市民の生活や被災後のまちの早期復興のために、新耐震基準での耐震工事の普及、補助金での家具の固定、各家庭の防災備蓄の準備を進めていくことが、必要だと考えます。

そこで質問します。

西尾市で学生向けの防災士育成のためのプログラムを実施したことありますか。

危機管理局长／築瀬貴央

まず初めに、防災士の資格を取得されたこと大変うれしく思いますし、ありがとうございます。小林議員のように防災意識を高く持つ人が増えることで、西尾市の防災力向上につながっていく、大変意義深いものだと思っております。

さて、ご質問いただきました学生向け防災士育成のためのプログラムにつきましては、西尾市では実施はしておりません。しかし、小中学生を対象に防災リーダーの育成を目的としております「学校安全総合支援事業」を実施しております。

この事業は、平成30年度から毎年度、小学校・中学校を選定し、1年間を通じて様々な防災に関する授業を行うことで、児童生徒に災害に対する正しい知識を身につけていただくというものです。

具体的には、防災講演会や災害タイムラインの作成、避難所運営ゲーム、災害食作りなどを行い、取り組んだ成果を児童生徒自身が発信することにより、守られる側より守る側に立ち、地域の防災リーダーとして積極的に活躍していただくということを目的として行っております。

7番／幡豆中学校 小林優太議員

ありがとうございました。

毎年度、市内の小・中学校で防災に関する授業を実施していることが分かりました。しかし、今の取組だけでは、今後の担い手を育てていくには不十分だと感じました。

そこで再質問します。

愛知県で取り組んでいる「防災・減災カレッジ」のような活動を西尾市でも取り組みませんか。

危機管理局长／築瀬貴央

西尾市においても、毎年度「防災カレッジ」を実施しており、愛知県の「防災・減災カレッジ」と同様に、防災意識を高め、自助・共助を推進する防災リーダーの育成を目的としております。

西尾市の「防災カレッジ」では、防災士資格取得試験の受験資格は得られませんが、「防災・減災カレッジ」と同じ講師や防災関係の専門家、有識者による講座を行っており、防災に対する知識を深めていただくことができます。

防災リーダーは、災害に対して正しい知識を持ち、それを周囲の人たちに伝えられる

人であり、災害時には、自分だけでなく、地域の人も助けられる存在であると考えております。

本市では、これからも防災リーダーの育成に取り組んでまいりますので、小林議員も地域の支えとなる防災リーダーとして活躍していただくことを期待しております。

7番／幡豆中学校 小林優太議員

ありがとうございました。西尾市でも市民向けに防災カレッジを行い、より深い知識を得られることが分かりました。機会があれば、僕は参加してみようと思いました。

続きまして、2つ目の質問に移ります。

市民を対象として、「耐震工事を行っているか」「家具の固定を行っているか」「家庭での備蓄、非常用持ち出し袋を用意しているか」という点について調査を行っていますか。

また、調査を行っている場合、各項目で実施している人の割合はどれくらいですか。

危機管理局长／築瀬貴央

危機管理局関係分についてお答えをいたします。

「家具の固定を行っているか」については、令和2年度の市政世論調査で実施をしております。「家庭で食料をどのくらい備蓄しているか」については、令和4年度の市政世論調査で実施をしております。なお「非常持ち出し袋を用意しているか」についての調査は行っておりません。

また、調査項目ごとの回答割合は「家具の固定を行っているかについて」は、「固定をしている」が15.3%、「一部固定をしている」が41.8%、「固定していない」が41.1%、「無回答」が1.8%となっております。

「家庭で食料をどのくらい備蓄しているか」については、「7日分以上」が5.3%、「3日～6日分」が32.6%、「1日～2日分」が39.1%、「備蓄していない」が21.6%、「無回答」が1.5%となっております。

健康福祉部次長／鈴木貴之

健康福祉部では、障害者と高齢者に対する家具の転倒防止支援を行っていますので、家具の固定に関する調査についてご答弁申し上げます。

調査は、平成26年度に重度の障害のある方を対象に行ったアンケートで、家具の転倒防止金具の取り付けについて尋ねました。その結果、「すべての家具に取り付けている」と答えた方が5.6%、「一部の家具に取り付けている」が36.3%で、家具の転倒防止金具を取り付けている方の割合は全体の41.9%でした。

なお、高齢者を対象とした家具の固定の調査は行っていません。

都市整備部長／吉田修二

耐震工事について、都市整備部関係でお答えします。

「耐震改修工事の実施状況」については、市としての調査は行っておりません。しかしながら国が5年ごとに実施している「住宅・土地統計調査」の調査結果を基に推計しま

すと、本市の旧耐震基準で建築された住宅のうち、耐震改修工事が実施された住宅は約16%になります。

7番／幡豆中学校 小林優太議員

ありがとうございました。

どの項目も実施されている家庭があるものの、その割合は低く、十分ではないと感じますので再質問します。

各項目の実施率を向上するために、啓発や補助金交付などの対策を行っていますか。

危機管理局長／築瀬貴央

危機管理局関係部についてお答えをいたします。

各項目の実施率を向上させるため、地域の出前講座や、小さいお子さんがいる方を対象とした「ママとパパの防災講座」などにおいて、過去の災害事例を示しながら、耐震工事や家具の固定、家庭での備蓄、非常持ち出し袋の用意の重要性についてお伝えしております。

また、電気・ガス・水道を使わずに作ることができる料理を実際に作りながら、家庭での備蓄方法を学ぶ「災害クッキング講座」も実施しております。

加えて、市広報紙「防災のススメ」のコーナーにおいて啓発も行っております。

健康福祉部次長／鈴木貴之

健康福祉部関係分について、ご答弁申し上げます。

市が行う家具の転倒防止金具の取付けは、重度の障害のある方や65歳以上のひとり暮らしまたは高齢者のみの世帯を対象に、原則無料で行っています。

家具固定の啓発としては、この支援制度を広報にしおやホームページ、福祉サービスのパンフレットなどで周知しているほか、障害者の方には障害者手帳を交付する時に制度の案内をしています。また、高齢者の方には、地域の民生委員などが対象世帯を訪問した際にお知らせをしています。

都市整備部長／吉田修二

都市整備部関係分についてお答えいたします。

耐震工事の実施率を向上させるため、旧耐震基準の木造住宅を耐震改修する方に対して、耐震工事費の補助を行っています。

耐震改修補助事業では、最大100万円を補助することが標準であります。本市では、補助額の上限を120万円に増額することで、事業の促進に努めております。

また、耐震改修を実施されない場合であっても、耐震シェルターを整備する場合や、簡易な耐震工事を実施する場合なども補助の対象としており、市民のニーズに合わせた複数の補助事業を行っています。

これらの補助事業につきましては、広報にしおの4月号に毎年掲載するとともに、ホームページなどによる周知に努めているところであります。

7 番／幡豆中学校 小林優太議員

ありがとうございました。西尾市でも様々な施策を行い、災害への対策を進めてくださっていることが分かりました。

先日、九州地方で南海トラフ地震の想定区域内で大きな地震が起きました。僕たちのまち西尾にとっても他人事ではありません。

ぜひ、これからも市民が安心して暮らせるように、そして今後の明るい未来の実現に向けての対策をより強化して行ってください。

本日は貴重なお時間ありがとうございました。以上で質問を終わります。

議長／鶴城中学校 大久保旭

ありがとうございました。幡豆中学校 小林優太議員の質問が終わりました。

次に、8 番目の質問者、寺津中学校 岡本悠真議員。

8 番／寺津中学校 岡本悠真議員

それでは、通告に従い、質問します。

僕のテーマは、「気兼ねなく遊べる公園の整備」です。

僕はよく友達と外で遊ぶことがありますが、その時に困ることがあります。なぜかという、ボールを使ってはいけない公園や思いっきり遊ぶには狭い公園しか近くにないからです。

以前、子供を連れて方に「この近くにバスケットゴールがある場所はありますか」と尋ねられたことがありました。僕の住んでいる地域には小さい公園が多く、バスケットゴールなどの器具もないので適当な場所を教えてあげることができませんでした。このような経験から公園について調べてみると、地元の寺津地区を含め、西尾市には気軽に行って、スポーツができる広い場所が少ないと感じました。

また、平成14年に文部科学省の中央教育審議会が答申した「子どもの体力向上のための総合的な方策について」の中に、スポーツや外遊びで不可欠の要素である空間が住宅の開発に伴って減少していることが、子どもの体力低下の一つの原因とされています。

自宅近くの公園には高い柵がなく、ボールを使って遊ぶとボールが道路に出てしまい危険な上に、近所の方に迷惑がかかります。公園でスポーツをする場合は、周りの状況に合わせて安全に行い、ほかの方や近隣住民に迷惑をかけることが大切ですが、近くの公園には気兼ねなく中学生が遊ぶことができる場所は残念ながらありません。

そこで、今ある大きな公園に高いフェンスや柵を設置してみるのはいかがでしょうかと考えました。無料で誰でも使えるようにして、曜日ごとに優先して使える年代を分けてみるのはいかがでしょうか。それと同時に大きな公園をつくり、いつでも気軽に無料で様々なスポーツができるようにバスケットゴールなどを設置して、予約なしで遊べるようにしてほしいと思います。

そこで質問をします。

寺津緑地に高いフェンスや柵を設置して、ボール遊びができる場所にしてみてもはいかがでしょうか。

都市整備部長／吉田修二

公園や緑地は、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層が利用する憩いの場であり、基本的に自由に利用できる施設であります。曜日毎や年代別に優先利用することはできない施設になります。また、ほかの利用者や周辺にお住まいの方に迷惑をかけない程度の運動であれば、ボールを使用した運動についても基本的に可能な施設と考えています。

周囲に迷惑をかけることなく、ボールを使って気兼ねなく運動することは公園や緑地では難しく、大きなグラウンドなどを備えたスポーツ専用の施設が必要になると考えています。「スポーツ都市宣言」をしている本市としましては、「西尾市スポーツまちづくりビジョン2040」を策定し、スポーツ施設を計画的に整備してまいります。多目的に使えるグラウンドのような不足しているスポーツ施設については、今後、整備に向けた検討が必要であると考えています。

ご質問の寺津緑地につきましては、先ほどお答えしたとおり、周囲に迷惑をかけない程度のボール遊びはできますが、面積や形状を見ると気兼ねなく運動できる施設としての利用は難しいと考えており、現時点で高いフェンスを設置する予定はありません。しかしながら、外周にフェンスなどがいないため、ボールが道路に出てしまうという事でありましたら、対策等を検討したいと思えます。

8番／寺津中学校 岡本悠真議員

ありがとうございました。

続きまして2つ目の質問に移ります。

西野町保育園跡地に「にしのみ茶公園」を整備する予定がありますが、その中に無料でスポーツができる場所がありますか。

都市整備部長／吉田修二

にしのみ茶公園は、地域の皆さんと話し合いをした上で整備を進めており、全体面積4,600平方メートルのうち、遊具や休憩施設等で約820平方メートル、駐車場及び駐輪場で約250平方メートル、園路や植栽などのその他施設で約1,430平方メートルを整備し、残り約2,100平方メートルを広場として整備する計画としています。

広場を含めて公園の利用は基本的に無料であり、自由に使うことはできますが、にしのみ茶公園の広場面積から野球やサッカーなどの試合に近い本格的な運動はできませんが、キャッチボールやパス・ドリブルなどの基礎的な運動や、バレーボールなどの軽い球技については、周囲の人に迷惑のかからないものであれば可能であると考えています。

8番／寺津中学校 岡本悠真議員

ありがとうございました。

「にしのみ茶公園」は軽い運動、軽い競技も可能とのことですので、再質問します。

「にしのみ茶公園」以外に、寺津地区や西尾市内でスポーツができる大きな公園を整備する予定はありますか。

都市整備部長／吉田修二

寺津地区を含めて、市内でスポーツができる大きな公園を整備する具体的な予定はありませんが、吉良町の駁馬地区で新たに整備する公園には、地元との調整の結果、バスケットゴールの設置を予定しているところもあります。

また、古川緑地のテニスコートなど、公園内で廃止または使い方を変更するという予定をしているスポーツ施設の跡地利用として、気軽に運動できる施設整備を検討したいと考えています。

8番／寺津中学校 岡本悠真議員

ありがとうございました。

今回は公園についての質問でしたが、スポーツや運動を多くの人が市内で楽しむことができるという観点で整備し、西尾市をもっと住みやすい市にしてくださるとうれいひです。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

議長／鶴城中学校 大久保旭

寺津中学校 岡本悠真議員の質問が終わりました。

次に9番目の質問者 佐久島しおさい学校 筒井大駕議員。

9番／佐久島しおさい学校 筒井大駕議員

はい。それでは、通告に従い、質問します。

僕のテーマは、「佐久島の未来を支える観光を」です。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されて1年が経ち、僕が住んでいる佐久島にもたくさんの観光客が戻ってきました。

僕の家族は佐久島で民宿を営んでいます。曾祖父の代から始まり、僕の父で3代目です。その民宿にも家族や団体で宿泊するお客さんが戻ってきました。僕も連休や学校の長期休みの期間には、民宿の手伝いをする機会が増えています。

今年度、「第2次西尾市観光基本計画」が策定されました。それによると、佐久島は、令和4年の1年間でおよそ8万5,000人の観光客が訪れており、観光満足度として佐久島を「魅力的だと思う」「どちらかといえば魅力的だと思う」と回答した人の割合が8割近くに上っていることが分かります。ここから、佐久島は西尾市にとって大きな観光資源の一つであると言えます。

一方で、気掛かりなこともあります。それはコロナ禍前と比べ、年間の観光客数が減少していることと、観光客のうち、佐久島を含め市内の宿泊施設を利用して宿泊している人が少ないことです。

コロナ禍前の令和元年は約10万9,000人だった佐久島への観光客数は、令和4年には2万人以上少なくなっています。また、西尾市への観光客のおよそ9割が日帰りであり、市内の宿泊施設を利用して宿泊した人の割合は1割にも満たないという現状があります。

確かに、佐久島の様子を思い浮かべても、連休や長期休み、気候のよい土日などには、臨時の渡船が次々に出て、観光や釣りなどでとても多くの人が島を訪れますが、コロナ禍前と比べると少ないように感じます。また、昼過ぎや夕方までに帰っていく人がほとんど

で、宿泊目的で民宿を利用する人は限られています。民宿業は島民の生活や島の観光業を支える重要な産業の一つですが、その民宿業が今後も存続していくことができるのか心配しています。

僕がこのように感じるのにはもう一つ理由があります。日本社会全体だけでなく、佐久島でも少子高齢化が進んでいます。高校や大学へ進学する際に、若者が島を離れる場合もあり、島の高齢者の割合が高まっています。進学などで一度は島を離れた若者が再び島に戻り、観光業とともに魅力ある佐久島を存続させていくには、島に働き口があり、生計を立てられる仕組みが整っていることが大切だと考えます。

僕自身、民宿を父から受け継ぐかどうか、まだ具体的には考えられてはいません。しかし、進学を機に島を一旦離れた後に、生まれ育ったふるさとである佐久島に戻ることを考えたとき、民宿業をはじめ島に働き口があることや、それにより生計を立てられる仕組みが整っているかどうかは、僕のその後の生活を大きく左右すると思います。そして、それは僕の後輩たちも同じです。

そこで質問します。

西尾市の観光施策の展開についてです。日帰りでの観光のみならず、市内の宿泊施設への宿泊を伴う観光を活性化するために具体的にどのような施策を行っていくのでしょうか。例えば、吉良温泉と佐久島とで手を取り合い、吉良温泉の宿泊施設が運航しているようなクルーズ船を佐久島と結び、宿泊を含めた新たなプランを打ち出してみてもどうですか。

また、佐久島のアートや自然、海水浴場を生かした夜間のイベントやライトアップなど、佐久島でのナイトツーリズムを促進してはどうですか。

交流共創部長／石川孝次

本市にとって佐久島は、重要な観光資源であり、実際、多くの方々にご訪問いただき、島の魅力を体感していただいているところです。

今回ご提案いただきましたクルーズ船は、三河湾リゾートリンクスが運航しているものかと思いますが、食事などをメインにした湾内の遊覧のみを許可されたもので、佐久島への寄港はできません。

しかしながら、筒井議員おっしゃるとおり、本市を代表する観光地の佐久島と吉良温泉が連携すれば、より魅力的なコンテンツに成り得ると考えますので、今後、その方策について地域を交えて検討してまいります。

次に、ナイトツーリズム促進についてのご提案でございますが、佐久島で夜間のイベントを開催するには定期船の運航時間ですとか宿泊者への対応など多くの課題が考えられます。

また、何にも増して、島民の方々の協力は不可欠であり、島全体で支えていただける体制がなければ、実施はできません。ぜひ、筒井議員のような島の次世代を担う皆さんが中心となって、島全体で企画提案していただければうれしく思います。

9番／佐久島しおさい学校 筒井大駕議員

ありがとうございました。

続きまして、2つ目の質問に移ります。

佐久島の観光を取り巻く環境面の課題として、佐久島へのアクセスの難しさやトイレの整備不足を感じています。名鉄西尾駅や一色港からの交通機関の運行本数を増やしたり、吉田港などから佐久島へアクセスできるようにしてはどうですか。

また、観光客が快適に観光を楽しむためには、トイレの整備は不可欠です。トイレの整備や新たな公共トイレの設置をしませんか。

交流共創部長／石川孝次

西尾駅から一色港へのアクセスとして、名鉄東部交通バスが路線バスを運行しています。路線バスは午前9時以降に一色港を発着する渡船に接続できるようにダイヤが設定されており、繁忙期においては、台数を増やすなどして、全ての利用者が乗車できるよう配慮していただいております。

しかしながら、バスをはじめとする公共交通全般においては、慢性的な運転手不足などの理由から、日常的な増便や運行時間の延長などは大変難しい状況にあります。

また、一色港からの市営渡船の定期ダイヤの運行回数は中部運輸局の許認可により決められており、現在、赤字である一色～佐久島航路での増便は容易ではありませんが、5月の大型連休時のように多くの乗船待ち客がいる場合には、臨時便を増発して対応しているところです。

次に、新たな航路についてのご提案ですが、過去には、蒲郡港ですとか河和港、東幡豆港から期間限定で運行していたこともありますが、定期船となりますと、通年で一定数以上の利用者が必要であり、採算性を考慮しますと、新設は困難であります。

今後、多くの利用者が見込める新たな動きがあれば、その必要性について調査・研究してまいります。

最後にトイレの整備でございますが、現在島内8ヶ所に設置している公衆トイレの多くが老朽化していることから、まずは、洋式化に対応した改修を優先して利便性向上に努めてまいります。加えて、観光客から新設を求める声が多くなりましたら、その必要性についても検討をしてまいります。

9番／佐久島しおさい学校 筒井大駕議員

ありがとうございました。続きまして、3つ目の質問に移ります。

今後の佐久島における観光の取組についてです。

第2次西尾市観光基本計画には「観光・にぎわい創出に係る課題・改善点」として、「イベントを開催したりまとまった予算を投じたりすれば、一時的には来訪者が増えるが、観光の取組が継続・定着するための仕組みやい手育成などにも資源を充てるべきである」とあります。

佐久島が今後もにぎわいのある観光地として、また、魅力ある佐久島としてあり続けるために、西尾市としてどのような施策を考えていますか。

交流共創部長／石川孝次

豊かな自然やそれが生み出す景観、黒壁の家並みなど、開発の手が入っていない環境こ

そが佐久島の魅力であり、それに加えて、これら地域資源を生かしたアートによる島おこし活動を20年以上行ってきた結果、島を訪れる観光客や、観光きっかけに島おこしに参加していただくことになった島外ボランティアも増加しているところです。

佐久島における今後の観光の取組といたしましては、アートによる島おこし活動を継続しつつ、宿泊業や漁業関係者など地元の皆様との連携による漁業体験メニューをはじめ、自然を生かした環境体験など島の特性を前面に出した取組を行うことが、新たな観光客層の掘り起こしにつながると考えています。

また、観光客が増えれば、受け皿となる宿泊施設や飲食店など観光サービスの拡充も必要になってきます。地域おこし協力隊や島外ボランティアなど、新たな地域の担い手として期待される方々を通じて、担い手不足などの課題を解決していくとともに、島を美しくつくる会などが行う地域活性化に向けた活動への支援も継続してまいります。

筒井議員はじめ次世代の人たちが誇れるような、持続可能な観光地となるよう、まだ知られていない佐久島の魅力発信に努めてまいります。

9番／佐久島しおさい学校 筒井大駕議員

ありがとうございました。

難しいことも多くあることが分かりましたが、トイレの洋式化に対応した改修など検討していただけることもあることが分かり、大変うれしいです。僕も佐久島に住む1人として、佐久島のためにできることを考えていけたらと思っています。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

議長／鶴城中学校 大久保旭

佐久島しおさい学校 筒井大駕議員の質問が終わりました。

次に10番目の質問者、東部中学校 村井絢南議員。

10番／東部中学校 村井絢南議員

それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは「小中学校プールの将来計画と火災への備え」です。

私は小学生のとき、プールの授業が好きで、夏になるたびにいつも楽しみにしていました。小学校にはプールが2つあり、新しくはありませんでしたが、プールで泳ぐことができるだけで胸が弾みました。

また、プールが火災や災害のときなどの消化活動に使われる消防水利の1つであることを知り、重労働なプール掃除も誰かの命を助けるためだと考え、隅から隅まで丁寧に掃除をしていました。

そのため、小学校の水泳授業について速やかに温水プールへの移行を目指すという基本方針を掲げる「西尾市小学校プール全体計画」のことを知ったときにはうれしくなりました。小学生が新しくきれいでプールサイドが熱くない温水プールで泳ぐことができるからです。さらに、天候や気温に左右されることなく、専門のインストラクターの指導が受けられるため、より安全に、より楽しくプールの授業が行えるようになります。

市内中学校のプールも昭和40年代から50年代に建設され、50年以上経過しているもの

が多く、小学校プールと同様に老朽化が進んでいます。

しかし、中学校のプールが今後どうなるのかについては、具体的な計画が発表されていません。中学校での水泳の授業は、小学校の授業と比べると本格的なので、とてもやりがいがあります。だからこそ、私はもっと泳ぎやすい環境で、自分の水泳技術の向上に励みたいです。

それに、今後全ての小学校が温水プールに移行して学校内のプールが取り壊されると、小学校で火災が起こったとき、プールの水を使った消火ができなくなってしまうので危険だと思います。

そこで質問します。

中学校のプールについても、老朽化等により使用困難になることが考えられるため、何らかの対策が必要と考えます。今後、小学校のように温水プールに移行するなどの計画はありますか。

教育部次長／渡辺登志雄

村井議員がご意見の中で触れてくださったとおり、温水プールでの水泳事業には様々なメリットがあり、また温水プールに移行した小学校の児童や保護者などからも大変好評いただいておりますので、中学校においても小学校と同様に、温水プールへ移行することが望まれます。

しかし、全ての小学校が温水プールを利用する状況下においては、中学校のための受け入れ施設に空きがなく、また、中学校では水泳事業に加えて、水泳の部活動利用についても調整が必要なことから、現時点においては、中学校が温水プールを利用する見通しは立っておりません。

教育委員会としましては、まずは中学生よりも体力が劣る小学校の温水プールへの移行を優先し、中学校プールにつきましては、当面は必要な改修を行い、継続して使用していきたいと考えております。

10番／東部中学校 村井絢南議員

ありがとうございました。

続きまして、2つ目の質問に移ります。

市内全ての小学校の水泳授業が温水プールに移行すると、学校内にあるプールが取り壊されることが予想されます。その場合に、火災や災害の時などの消火活動をスムーズに行えますか。

消防署長／榎本壮一

まずは、これまで消防水利としての役割を考え、大変なプール掃除ありがとうございました。心より感謝いたします。

火災や災害時に使用する消防水利には、消火栓や防火水槽、川や池などいろいろなものがあります。

村井議員の言われたとおり、プールについても有効な消防水利の一つですが、プールについては水を入れていない時があったり、川や池などは水が少なくて水を汲むことがで

きないこともあります。

こうした事から消防では、常時確実に有効な水量を確保できる消火栓や防火水槽を最優先で使用するためプールがなくなっても学校周辺の消火栓や防火水槽を使用することでスムーズな消火活動への影響は少ないものと考えています。

10番／東部中学校 村井絢南議員

ありがとうございました。再質問します。

各小学校内に、防火水槽などの消化するために必要な水を蓄える場所を新たに設置しませんか。

消防署長／榎本壮一

消防水利の設置については、市内全体を考慮して計画的に実施しており、小学校のプールが取り壊されることにより、その地域の消防水利が不足する場合には、校内や学校付近に防火水槽や消火栓を設置してまいります。

なお、小学校ではありませんが、村井議員の通われている東部中学校については、既にグラウンドのバックネット裏にバスケットコートがあると思いますが、この地下に防火水槽が設置されており、仮にプールが取り壊されても支障がないものと考えております。

また、東部中学校に設置されている防火水槽は、地震が発生しても壊れることのないもので、消火をはじめ飲み水としても使用できる飲料水兼用の防火水槽となっておりますので、安心してください。

10番／東部中学校 村井絢南議員

ありがとうございました。

体力がより弱い小学校の整備を優先することは、水泳技術の基礎固めをすることにもつながるのだと納得しました。また、必要に応じて消火栓や防火水槽が設置されると知って安心しました。東部中学校に飲料水兼用のものがあることは知らなかったなので、今度調べてみようと思います。

以上で質問を終わります。ありがとうございました

議長／鶴城中学校 大久保旭

東部中学校 村井絢南議員の質問が終わりました。

以上で、本日の日程は全て終了しました。

これをもちまして、西尾市学生議会を閉会します。

広報広聴課長／牧原理恵子

皆さん、ありがとうございました。長時間にわたりお疲れ様でした。

それではここで、教育長から講評があります。

教育長／稲垣寿

10名の中学生議員の皆さん、ただいまは堂々とした立派な発表、質問、本当にありが

とうございました。感心いたしました。各中学校の代表としての仕事を皆さんは見事に果たされたと思います。

この本物の議場で、そして市長さんはじめ西尾市の幹部の方たちに向かって自分の考えを発表することができて、緊張もあったと思いますが充実感も得られたのではないかと思います。

さて、皆さんは西尾市議会のテレビ中継を見たことがありますか。

まもなく9月議会が始まります。キャッチで放映するので、学校では見るができると思うので、できたら、学校で校長先生に、多分今日も後ろにいらっしゃると思うので、頼んでみてください。

本物の議会でも、今日皆さんがしたように、市民の代表である市議会議員の方たちが、理事者、理事者というのは、今こちら側で皆さんと向き合っている人たちみんなこと、市長さんはじめ、市の幹部の皆さんのことを理事者と言います。理事者の人たちに向けて様々な質問をして、そして西尾市民が幸せに暮らしていくためにはどうしたら良いのかを真剣に話し合っています。

西尾市を豊かにし、住みよいまちにするために、産業振興や福祉、環境問題から災害対策など、ありとあらゆる課題を洗い出して、その解決に向けた協議をしています。

これ言い換えますと、この議会の仕事というのは西尾市の未来を作っていくことになりますから、極めて重い責任を負っているわけであります。ですからこの議場が、このようにすごく天井も高く、重厚な作りになっているのはそんな理由からです。

そして市長をはじめ、市議会議員の皆さんが選挙で選ばれるのも、西尾市の未来を決める重大な仕事を任せられる、そういう信頼できる人を、市民全員で選ぶために選挙をしているわけであります。

本日皆さんは、各学校の代表として、一生懸命に西尾市のことを考えて質問や提案をしてくれました。その思いに応えるために、冒頭で市長がおっしゃいましたが、理事者側の回答も中学生だからという遠慮や子ども扱いは一切なく、手加減なしで本物の議会と同様に検討し、回答をさせてもらいました。

実際、過去には、皆さんの提案が西尾市が進める事業に反映されたり、あるいは企業のアイデアとして採用されたものもあります。ですから、皆さんが本日受け取った回答は、掛け値なしの本物なのであります。

まもなく2学期が始まり、10月には後期生徒会もスタートしていくことと思います。皆さんには、今回の経験をもとに、学校内やそして身の回りの様々な問題に気づき、それを解決するための方法を考え、仲間とともに、解決に向けて実践をしていってほしいと思います。そして将来、西尾市の未来、日本の未来を担っていく人になってください。10人の中学生議員の皆さんに、大きな期待と今後の活躍を願って指導講評といたします。本日は、各自重責を果たされ、誠にご苦労さまでした。

広報広聴課長／牧原理恵子

最後に、中村市長からお礼の挨拶を申し上げます。

市長／中村健

10名の中学生議員の皆さんお疲れさまでした。

皆さん真剣な眼差しでそれぞれの思いを真剣にぶつけてくれて非常にうれしく思います。一つ一つ順番に簡単なコメントをさせていただきたいと思います。

トップバッター、福地中学校の永谷脩議員。「スポーツを通したまちおこし」ということで、まずスポーツ施設については、西尾市は数自体が少ないわけではないですが、規模感というか、少し機能が劣る部分があるので、一つ一つの競技についてしっかりとした施設を造っていく必要があると思っています。今、吉良町で大きなテニスコートを造っていますので、今後、プールだとか、陸上競技場だとか、結構お金がかかりますので、計画的に造っていきたいと思います。

あと、「スポーツを通したまちおこし」をしようとする、他の市でやっていないようなことをやるということも、イベント等で大事であって、にしおマラソンについては、少なくとも男性ランナーが走れるフルマラソンは県内ではにしおマラソンが唯一という独自性があるので、多分外からも来てくれるのだと思います。

いろいろ知恵を絞りながら、スポーツを通じて西尾市にたくさんの方が来てくれて、にぎわうような工夫をしていきたいと思っています。ありがとうございました。

2番目、平坂中学校の柴田春渡議員。「他の中学校の人との交流について」ということで、交流という部分に着眼点を持っていったのが僕はすごくうれしいなと思います。意見の中では中学生同士ということでしたが、僕らの思いとしては、年代の垣根を越えてほしいなというのがあります。

皆さんのような若者が地域に出てくると、やっぱり大人はすごくうれしいんですよ。だから、これからの将来は皆さんの年代が背負っていく中で、その若い世代となかなかうまくコミュニケーションを取れないのが結構上の年代なので、それが皆さんの方から歩み寄ってくれて、「何か僕にできることありませんか」とか言ってくると、めちゃくちゃ大人は喜ぶので、ぜひ一歩踏み出してほしいなと思います。ありがとうございました。

3番目が鶴城中学校の大久保旭議員。「介護支援の拡充について」ということで、今回の学生議会の中で一番意見を聞いていて胸が痛んだというのが正直なところです。本当にお母さん思いで、その思いはすばらしいなと思いますし、僕もそういった姿勢を尊敬します。

最初に制度の話をする、何かしらの支援をするためには制度というルールを作ることが必要になってきて、そのルールを作るためには、例えばお金の問題・費用負担の問題であるとか、需要と供給の問題があります。そこをしっかりと組み合わせることなどがあるので、困っている人を全員助けるというのはなかなか難しいというのが現実ではあります。

ただ、「それを制度としてできませんから」と言って冷たく断るのはやっぱり間違っていて、今の制度では救えることはできないかもしれないけれども、非常に困っている人や悩んでいる人がたくさんいるということを、僕ら政治とか行政の人間は、そこにすごく共感しながら今の制度を少しでもいい方向に変えられないかという姿勢で仕事に取り組んでいくことが大事なので、今回いただいたご意見も、しっかりと受けとめながら、よりよい制度にできないかということを考えながらやっていきたいと思っています。ありがとうございました。

4 番目、吉良中学校の加藤乃愛議員。「一日中楽しめるまち にしお」にするために」ということで、公園が少ないというのは、いろいろな人たちから言われていて、実は西尾市として大きな課題として捉えています。

人口当たりの公園の面積が少ないので、おっしゃるとおりなんですけれども、ただ、公園の数だけを増やせばいいというわけではなくて、一つ一つの公園の魅力度というか、利用する人が楽しめることが大事なので、そのためには利用者となる人の声を聞きながら、一つ一つ手を抜かずに行っていくことが重要だと思います。

公園は、1 個 1 個計画的に作っていくつもりなので、これはスポーツ施設と一緒にですが、一気に 2 個 3 個はできないですけれども、今は文化会館の前の S L があるところとか、西尾駅のヴェルサウォークの前のところとか、あの辺をまずやっていきます。今後、吉良町の方や八ツ面山を含めてしっかりやっていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

次が 5 番バッターの一色中学校の吉田明星議員。「もっと活気のある地元をしたい」ということで、「スポーツ都市宣言」というものを令和 3 年度に行いました。

スポーツはやっぱりオリンピックとかワールドカップが典型で、多くの人が熱狂をして一体になるというところがあります。そこは一つ大きな魅力だし、あるいは年を重ねてくると健康のためにスポーツがいいとか、逆に若いとスポーツで自分の夢を達成するということがあるので、やっぱりスポーツというのはすごい力を秘めていると思っています。

そのために「スポーツ都市宣言」をしましたので、施設整備とマラソンのイベントを含めて、スポーツというもので西尾市をどう元気にさせていけるかというのは、覚悟を持ってやっていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。ありがとうございました。

6 番目、西尾中学校の大橋実議員。「西尾の抹茶を知ってもらい、触れてもらうために」ということで、西尾の抹茶はご承知のとおり、西尾市の最大のキラコンテツ、要は武器だというふうに思っています。

確かに、知名度でいうと宇治には負けていると思いますが、10 年前や 20 年前に比べて宇治との距離が広がっているか縮んでいるかという、僕は確実に縮んでいると思います。

兵庫県に旅行した時に見てくれたのも一つの例ですし、最近だと「たけのこの里」とかで西尾抹茶味があります。「西尾の抹茶」という名称が出る商品がすごく増えてきたのは、抹茶を作っていたり、てん茶を作っていたり、抹茶の販売をしている会社の努力もありますが、そこは行政も含めてしっかり PR をしながら、西尾の抹茶を最大限の武器としてこれからも頑張っていきたいと思っています。ありがとうございました。

7 番目、幡豆中学校の小林優太議員。「明るい未来への実現に向けて」ということで、防災の視点は非常に大事です。元日に能登半島地震があったように、この地域も南海トラフ地震が将来的に発生した場合に非常に深刻な被害が想定されています。発生する時刻によっては、ここの中で言ってくれたように、大人がなかなか西尾市内にいないことも想定されます。そうすると、中学生とか高校生も守られるという立場だけではなくて、守るとい立場で何ができるかということを考えることが重要です。

そのため、今回、防災士の関係で防災に関心を持ってもらえたのはすごくうれしいと思いますし、いろいろ知識をつけるだけではなくて、地域において何ができるかということも考えてもらえるとありがたいです。将来的には、消防団という組織があつて、例えば

火事の際に消火活動するとか、台風が来たときに水害が起こらないようにするとか、地域の、それこそまちを守るためのリーダー的な存在が消防団なんですが、近年、消防団になってくれる人が少なくなっていて困っていますので、そういうことも一つの選択肢として持ってもらえるとうれしいなと思います。ありがとうございました。

8番目が寺津中学校の岡本悠真議員。「気兼ねなく遊べる公園の整備」ということです。基本的な考え方としては、公園の中で「〇〇をしてはいけない」というルールは極力作りたくないと思います。自分が子どもだった時は、そこまで「〇〇をしてはいけない」ということはありませんでしたが、確かに最近「〇〇してはいけない」ということを我々もルールとして使っている部分があります。

それは、ごく一部のマナーが悪い人がルールを守らないことによって、周りの人に迷惑がかかっている、ちゃんとルールを守っている人も被害を被っている、迷惑を受けているということなので、僕らとしても非常に残念というか、何とかしたいと思っています。

しかしながら、皆さんがストレスを感じることなく、みんなでルールを守って使うということができない場合に、一定程度の制限を設けることは致し方ないとは思いますが、基本的にはそういうことがないようにしていきたいと思いますので、よろしくお願ひします。ありがとうございました。

9番目、佐久島しおさい学校の筒井大駕議員。「佐久島の未来を支える観光を」ということです。

確かに、コロナ禍を経て、一時よりも観光が少し落ち込み気味ではありますが、佐久島については、近年、基本的には観光は好調であって、それを伸ばしていくためのアイデアは我々としてもいくらでも考えられると思っていますので、島民の方とも協力しながら、いろんな工夫をしていきたいと思っています。

その一方で、筒井くんはご存じだと思いますが、島の人口がすごく減ってきています。その方が課題として大きくて、特に皆さんのような若い人が、一旦、進学や就職の関係で島を出た後になかなか戻って来られないような状況があるというのは、本当に大きな課題です。働く場所がないと戻ってこられないというのはおっしゃるとおりなので、どう働く場をつくっていくかというのは本当に大きな課題です。

なかなか突破口が見えてきませんが、それをやらないと島の人口がどんどん減っていく、観光どころじゃなくなってしまうので、観光に力を入れるだけではなくて、しっかりと島の皆さんの生活を守っていくことも引き続きやっていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。ありがとうございました。

最後、東部中学校の村井絢南議員。「小中学校プールの将来計画と火災への備え」ということです。まず、学校のプールから温水プールに授業の場所が移るという問題から、「プールがなくなった場合に、火災を消火する水源がなくなって困るんじゃないの」ということを考えられたのが、僕はすばらしいと思います。一応、消防水利はあるということですが、そういうことを問題意識として持てたことに自信を持ってほしいと思います。

僕が子どもの時、夏場でも寒くてプール中止ということがありましたが、最近はありません。猛暑のためにプールが利用できないこともあるので、なるべく早くスムーズに、民間も含めた温水プールへの移行というものを進めていきたいと思っていますし、現段階では

中学校の計画が決めきれいてませんが、状況を見て、なるべくスムーズにやっていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。ありがとうございました。

少し話題を変えさせていただきますが、実は、最近西尾のまちにちょっと勢いが出てきているというのは、皆さんご存知でしょうか。課題もありますが、本当にいいニュースもあって、その中の一つを紹介させていただくと、中心市街地とって、西尾駅から歴史公園やカテキン堂の辺りまでのエリアを、中心市街地という言い方をするんですが、特にそのエリアで今すごく元気が出てきています。

たくさんのイベントが開かれたり、シャッターが下りていた店に新しく出店が決まったりというのが、この1年～2年非常に増えてきています。その理由としては、そこでのいろんなことをやってくれる民間の人が増えてきたからということです。まちづくりとか、まちを元気にするためには、確かに我々市役所の人間、要は行政という世界の人間がやることも役割としてあります。行政しかできないこともあります。我々は裏方であって、主役は市民の方です。だから市民の方が気持ちよくいろんなことができる舞台を整えるのが僕らの仕事で、中心市街地についてはそれができつつあるので、非常に活気が出ています。

皆さん、いろんな問題意識を持って、学生議会で意見を言ってくれました。それはすばらしい経験であって、ぜひ今後に活かしてもらいたいです。もう少し年齢が高くなって成長して、いろんなことが行動できるようになったときに、せっかく関心を持ってくれたのだから、ただ第三者的に見ているだけではなくて、ぜひ、その輪の中に自分も飛び込んでいって、「自分に何ができるかな」というのを考えて行動してくれると、もっともっと西尾市は元気になります。そのための舞台はこれからも整えていくので、まちづくりは行政だけが行うのではなくて、市民が主役で、それを行政が応援するというのが一番いいと思っています。

一緒になって、西尾市がこれまで以上に元気になるように頑張っていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いさせていただきます。最後の挨拶に代えさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

広報広聴課長／牧原理恵子

以上をもちまして、西尾市学生議회를終了します。

皆様、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

閉会